

熱い!!

全国で成果をあげる プロファイnderユーザーの声

「各々のハウス環境を測定すれば、各々の改善方法が見えてくる。」福田 茂輝様（栃木県鹿沼市 トマト生産者）



地区	栃木県鹿沼市
作物	大玉トマト（マイロック） ミニトマト（サンチェリーピュア） フルーツトマト（ソプラノ）
台木	-
作型	土耕栽培
施設面積	70a
定植	8月下旬～10月上旬 収穫：6月末まで
定植本数	2.3～3.0本/m ²
プロファイnder導入日	2016年1月

【導入したきっかけは？】

ハウス内環境には元々興味があったのですが、実ははじめは他社の測定器を導入していました。ただ、その測定器は15分間隔でしか記録ができず細かな管理ができませんでした。その機器が壊れたのをきっかけに、1分間隔で測定できるプロファイnderの購入を決めました。今思えば、プロファイnderの性能や画面の見やすさ、会員向けの勉強会やセミナーなどでの情報収集を考えると、はじめからプロファイnderを導入しておけばよかったと思っています(^_^;)。

【導入した感想は？】

結果を先に言うと、環境制御に取り組み、大玉トマトは収量が20t/10aから26t/10aに、フルーツトマトは品質が向上して収量が20%増加、全体の売上は700万円/10aから850万円/10aになりました。目的通りプロファイnderでの1分間隔の測定は、天気が急変した時にハウス内がどのように変化し、どう対処するかを判断するのに非常に役に立っています。以前の測定器ではできなかったことなのでとても助かっています。

私は高軒高ハウス(P0フィルム)、屋根型ハウス(エフクリーン)、ガラスハウス、アングルハウス(P0フィルム)と様々なタイプのハウスでトマトを栽培しています。それぞれのハウスに測定器を導入することで被覆材の特性がわかり、それに応じてハウス内環境を制御しています。例えば日の入り後のハウス内温度低下は、エフクリーン>P0フィルム>ガラスの順で早いことがわかりました。日の入前後のカーテンを閉めるタイミングもハウスによって使い分けています。こうすることで日の入りギリギリまで光合成をさせたり、余計な温度低下を防いだりすることができました。また軒の高いハウスと低いハウスの換気力の違いがよくわかりました。夏期、遮光目的にカーテンを閉めたとき、軒の高いハウスだと側窓からの風がカーテンの隙間を通して天窓から換気されているのに対し、軒の低いハウスは側窓とカーテンの距離が近く、風がカーテンにぶつかって天窓から換気されていないことに気がきました。これは実際の温度推移を見ているとよくわかります。このような細かな管理を実施することで、それぞれのハウスでの収量を年々伸ばしています。

【今後の抱負は？】

直近の目標としては、大玉トマトの収量は32t/10aです。将来的に1,000万円/10aの売り上げを確保したいです。1,000万円/10aの売上には年間を通して安定した売上を確保するのが必須なのですが、現在、夏秋栽培の連作障害が問題になっています。将来的にはロックウール栽培も検討しています。そのときは誠和さんにお世話になるかもしれません(笑)。新設ハウスも計画しています。様々なハウスで栽培を経験できたので、各々のハウスの良し悪しは把握できました。自分が目標とする経営も考慮しながら、自分にあったハウスを建てたいと考えています。

【誠和担当者からの一言】

小金井営業所の若菜です。福田さん、お忙しい中インタビューを受けていただきありがとうございました。初めて話をさせてもらったときに、「補助事業だと自分仕様のハウスが建てられないし、待てなかったから自己資金で高軒高ハウスを建てた」とおっしゃっていたのがとても印象的だったのを覚えています。トマトにとって理想的な環境をつくるためにどうすべきかを最優先に考えられているなど感じました。勉強会やセミナーにも積極的に参加していただき、そのときの服装はいつもオシャレで、次世代のカッコいい農家の見本となっているなど勝手ながら思わせていただいています。今後もお役に立つ情報を提供できるよう努めていきます。これからもよろしくお願い致します。